

平成30年度第1回学校関係者評価委員会 記録

日時：平成30年6月22日（金）15:00～16:30

場所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館2階会議室

委員：水越省三(同窓会代表)

武石協子(企業代表)

土岐 純子（地域代表）

神戸 佳世（保護者代表）

藤澤卓美(校長)、杉浦宏幸(副校長)、木村節治(保育科長)、加藤由美(教学主任)

立野好秋（事務長）

議長：藤澤校長（記録：杉浦宏幸）（敬称略）

1 開会のあいさつ

副校長から開会の挨拶がされた。

2 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、職業実践専門課程の取り組み、再指定申請中であることの報告があった。

3 委員の委嘱について

「名古屋芸術大学保育専門学校関係者関係者評価委員会内規」(別添資料1)の説明後、別添資料2に基づき出席者紹介があった。

4 本校の概要

(1) 平成30年度教育理念・教育目標・求める学生像・めざす学生像・経営方針・職業実践専門課程の認定について、別添資料3に基づき校長より以下の概要説明があった。

卒業時の姿としてのめざす学生像は次の4点に絞って考えている。①保育者としての基本的な知識、技術、マナーを身につけている。②子どもの発達の基礎を実践的に学び、子どもを理解する力が優れている。③子どもの願いを汲み取る対話力に優れ、子どもの願いに応える計画作りができる。④自ら学んでいく意欲や保育者としての使命感とともに、協働の心、奉仕の心を身につけている。これらに向かうために、第1に現場がある専門学校としてどこを強調していくのかを検討する。第2に学生の持つ力をできるだけ発揮させる。次に、教職員の学生に対する温かい眼差しを大事にする。いい先生に接した学生は、いい先生になるものである。最後に、実習に重点を置いて考えていることである。

次に、経営の方針としては、学生支援の重点を4つ、教職員の重点努力目標を5つ決めて取り組んでいること。

さらに、職業実践専門課程への取り組みとして、実習の充実、外部評価・意見の反映、教員の研修の充実、専門職大学を視野に入れた取り組みにどう取り組んで行くかが課題である。

次に、職業実践専門課程に関わる「新しい実習方法」実践の取り組みと成果についての報告があった。プレ実習の方法、教育実習Ⅰへの取り組みの成果として、学生の気づきの交換から気づきの幅が広がったこと、子ども理解の深まり、主体的な教師の働きかけ、子どもを主体とした指導計画の作成、幼稚園の全体像の把握、教師としての心構えなどの成果についての報告があった。

(2) 平成 30 年度学生数状況について、別添資料 4 に基づき木村より概要説明があった。

(3) 平成 29 年度就職状況について、別添資料 5 に基づき木村より概要説明があった。

平成 30 年度 名古屋芸術大学保育専門学校パンフレット・平成 31 年度入学生名古屋芸術大学保育専門学校学生募集要項（別添冊子資料）・オープンスクール等の案内について、杉浦より紹介があった。

(4) 教育課程について、講義要項 2018（別添冊子資料）について、杉浦より紹介があった。

①平成 30 年度前期・後期時間割表について、別添資料 6 に基づき、木村より概要説明があった。

②平成 30 年度年間事業計画について、別添資料 7 に基づき、木村より概要説明があった。

(5) 職業実践専門課程（企業団体等との連携）の取り組み（成果）について、別添資料 8 に基づき、校長より説明があった。続いて、プレ実習の取り組みについて杉浦から説明があった。

(6) 自己評価・学校関係者評価について、別添資料 9 に基づき杉浦から概要説明があった。

(7) 学生による授業評価について、別添資料 10 に基づいて、杉浦より概要説明があった。29 後期には向上している旨の説明があった。

(8) 平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会意見の反映について、別添資料 11 に基づいて、杉浦より概要説明があった。その中で、4 項目について委員による改善に向けての提言があり、それに向けて改善を進めて行きたいとの説明があった。

(9) その他について、再課程認定（教育職員免許法の改正に伴う）に伴うカリキュラム編成については、申請予定のものが別添資料 12 として出され、その概要説明が木村よりあった。

さらに、平成 29 年度各種奨学金等受給状況一覧について、別添資料 13 に基づいて木村より概要説明があった。

5 協議（説明に関する質疑・ご意見）

委員・プレ実習では、学生が具体的にはどんな経験をしているのか。

校長・希望学年を調査し、配属クラスを決める。このクラスは、実習Ⅰも同じクラスとする。今年は、1 回のみ他の学年のクラスへも入れるようにした。これは、幼児の学年の違いや発達の違いを見させるようにした。園児一人を決めて実習中に観察し、園

児の変容を記録させ、考察するようにしている。

校長・プレ実習は、単位がない。これは、ねらいを持って実習させていく。実習で気づいたことを、自分 → グループで検討 → クラスで検討。この流れで、子どもへの気づきの観点を深めさせている。夜間の学生の気づきは、深みを感じる。「半日実習 → 話し合い → 担任との懇談」の流れである。このプレ実習の方法は有効であると思っている。

委員・プレ実習が、教育実習Ⅰの前段階の実習となっていて、学生が実習に対抗なく入っていけるのは、プレ実習があるからであると思う。

委員・夜間の学生の実習は、いつ実施しているのですか。

加藤・昼間に実習は実施しているので、仕事等がある学生は休んで実習をしている。

校長・夜間の学生は、職員として働いている学生もいる。夜間学生の80%くらいは、保育の現場でアルバイト的に仕事をしている。

委員・学生による授業評価は、29後期は上昇している。

委員・学生による授業評価が上がったことは、学校に対する生徒の気持ちも表れている。これを機により一層授業内容、施設の充実を図っていきたい。

校長・各先生が前回の結果を受け止め、改善した結果が少し出てきているように感じる。教員の構成は、専任8人、非常勤20人程度いる。全ての授業者の結果をまとめたものである。

委員・保護者の立場で前回の実習に比べると、子どもが成長を感じる。家での準備の様子から強く感じる。経験の回数が大切だと思うので、学校の授業の中で、実習中にやれるようなことを授業で行うことができればよいと感じる。

委員・学生が、実習にできる引き出しを多く持てるようにして欲しい。

委員・本学の5年前の学生の姿と比べると、しっかりしてきているように感じる。このことは、学生がやらなければいけないことを、はっきりと持てるようになったからではないかと思う。

校長・学校の隣に園があり、実習の担当クラスの園児から先生と呼ばれることも関係しているのではないかと思う。

委員・学生に緊張感が感じられる。

校長・教員が学校でできること、実習でできることをはっきりとさせていくことが大切である。

委員・奨学金や補助金の具体的な金額が記されており、学校理解の資料として参考となった。

委員・意見としてあげたことが検討され、早期に便覧に反映されている。

杉浦・今後もできることから改ざん等を進めていく。忌憚のないご意見をお願いしたい。

委員・学校の知名度という件で、地下鉄電車へのポスター等の掲示は、インパクトが強い。広報として、高校生等にターゲットをしぼらないようなことも必要であると考える。

杉浦・広報の考え方として、予算内でできるかを検討していく。60年の歴史を持つ伝統校であるが、校名変更をしていることもあるので、知名度という観点も大切に考えたい。

校長・様々なご意見ありがとうございました。いただいたご意見を検討して進めていきたい。

6 今後の予定

- ・次回開催 平成30年10月27日（土）学校祭当日
- ・学校関係者評価 平成31年3月末日まで